



さかた よしお
坂田芳郎 議員
Sakata Yoshio

Q. 保育園での投薬は

A. 医師の見解を聞き検討する

12月定例会

討議

審議結果

委員会視察

一般質問

Q 町立保育園では、医師より朝・昼・晩の食後、一日3度の服用を指示されている園児の場合、昼服用分はどのように対応しているか。

A 生活福祉部長
現在保育園では、園児に

指摘を受けお尋ねする。難しい問題である。
乳児・低年齢児は、言葉も喋れず、また十分ではなく、いさかい・トラブルが多い。
そのうえ集団生活と免疫力の問題もあり、病気にもかかりやすい。
しかしながら、自我が芽生え人格の下地が形成される重要な時期でもある。
日々時々、きめ細やかな配慮と体力が求められる現場であり、ゆえに保育士不足は全国的に常態化していると聞く。
係る状況下にあっても、さらに保護者より個別に求められるものもその要望がある。これもそのうちの一事案である。

Q 処方された薬を飲ませることはしていない。

Q 名古屋市ほか、実施している自治体も数ある。柔軟な対応をお願いしたい。

A 生活福祉部長
薬の服用については、人体に影響が生じるものであり、誤った取扱いによる事故を防止するため、実施していない。
今後は、保育士が薬を飲ませることについて、医師の見解を聞きながら、検討していく。

Q 関連・背景としてお尋ねするが、保育士の確保は絶対である。保育士は資格職である。休眠保育士が起き上がり駆け寄るくらいの大胆なる、政策行政的施策を、その筋からの指導や周辺自治体に、なんら気兼ねすることなく、率先して打ち出してください。

A 同時に①現場の悩みと対策②子育て支援を、機会あるごとに重点施策として当初より

語る、服部町政にあつて、他の市町にはない本町独自の施策があれば2、3お伺いする。

A 生活福祉部長
現場の悩みは、保育士の確保が難しい状況にあることである。その対策として、令和元年度からは非常勤職員の賃金を増額し、待遇面の改善を行っている。



▲現場の悩みは保育士の確保

また保育士の資格を取得することができる学校を訪問し、本町の保育士募集をPRするとともに、就職説明会でブースを出展し、正規職員の保育士の確保に努めている。
他の市町にはない、本町独自の施策については、保育士資格取得費用の補助を行っている。